

教育委員会だより ～学～ 令和5年12月号

教育委員 伊藤 沙織

11月5日、知立市文化会館にてしみん芸術祭民謡のつどいが開催されました。今年には小学生の娘も出演することになり、リハーサルから本番まで裏方のお手伝いなどをさせていただくことになりました。出演される踊り手さんたちは、下は小学生から上は80代まで、女性だけではなく男性もあり、まさに老若男女さまざまな方が力を合わせて舞台を作り上げていました。驚いたのが、みなさん1曲で終わりではなく、3～4曲踊られることです。1曲終わったら休む間もなく次の衣装に着替えて舞台袖へ。踊りの練習は年間通して行われているとのことでしたが、2か月で新曲2つを覚えて披露するところもあり、見た目の優雅さとは裏腹に存外過酷なものだと驚きました。同時に、知立市のご高齢の方のパワフルさに大変圧倒されました。

娘が所属させて頂いた会には、小学生だけではなく60代70代の方々もいらっやいます。我が家は夫の実家も遠方、私の実家も遠方なためなかなか祖父母に会うことができません。普段の生活でもおばあちゃんに近い年齢の方たちと触れ合うことがないので、みなさんに可愛がっていただいて娘も大変喜んでいました。元々、地域の盆踊り大会から今回の参加をお声がけ頂いたため、メンバーのほとんどが同じ町内の方たちで、道で会うとご挨拶をするような関係性を築くことができました。

現在、知立市の小学校と中学校では、地域と学校をつなぐコミュニティスクールの設置を目指しています。手探り状態でのスタートではありますが、こういった行事から少しずつ地域の方たちと子どもたちがつながっていけるとよいとっかかりになるのではと感じました。

民謡踊りのよいところは世代、性別関係なく一緒にできることです。踊りを覚えることで頭を使い、無理のない体の動きで身体を使う、まさに生涯スポーツといっても過言ではないものです。曲も、戦国時代から受け継がれているものから昭和歌謡までジャンルも様々。10年後20年後には平成、令和の楽曲で踊る日がくるかもしれません。気軽に気楽につなぐことができる伝統、それが民謡踊りなのです。他市の方がわざわざ知立まで来て練習に参加されていたり、各町内の盆踊りも盛んであったりと、知立市は他市に比べても踊りに大変力を入れていることがわかります。ぜひこれからも知立市の魅力の一つとして市全体で盛り上げていってほしいものです。

